令和６年度　瑞浪市総合教育会議　会議録

（要点筆記）

日　　時　　令和７年１月２３日（木）１５時００分開会
場　　所　　市役所　４階全員協議会室

出　席　者　（構成員）

市　長	水　野　光　二
教育長	伊　藤　慶　和
教育長職務代理者	可　児　恵　太
教育委員	羽　柴　　誠
教育委員	柴　田　洋　子
教育委員	鈴　木　圭　子

（事務局）

事務局長兼学校教育課長	浅　井　　誠
みずなみ未来部次長兼生涯学習課長	加　藤　百合子
スポーツ文化課長	水　野　義　康
企画政策課長	工　藤　雄　一
教育総務課長	兼　松　美　昭
教育総務課課長補佐兼総務係長	山　崎　美　和

説　明　者　　学校教育課課長補佐兼教育推進係長　　髙　橋　かおり
　　生涯学習課主査　　川　畑　篤　仁
傍　聴　者　　なし
報道関係者　　なし

次　　第

1　市長あいさつ

2　教育長あいさつ

3　協議・報告事項

①　瑞浪市のコミュニティ・スクール、地域学校協働活動について

②　瑞浪市ＧＩＧＡ第１期（Ｒ２．２月～Ｒ７．３月）総括

③　瑞浪市の不登校の現状について

④　瑞浪市のいじめの現状について

4　その他

1　市長あいさつ

各教育委員の皆さんにおかれましては、御出席を賜りまして誠にありがとうございました。

日ごろより子どもたちの教育の充実・発展・健全育成のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

昨年の４月に社会教育課とスポーツ文化課が教育委員会から市長部局へ移管し、1年が経とうとしています。みずなみ未来部の所管になりましたが、ある程度スムーズに移行できたのかと思っている反面、ちょっとぎくしゃくした部分があることも否めないと思いますが、新体制でこれから２年目に入りますので、しっかり対応して頂きたい。ぜひ、教育委員の皆さんにおかれましても、気づかれることがありましたらご指摘、ご提案を頂いて、上手くこの体制を発展していきたいと思っています。

また、令和７年度から複式学級が始まります。瑞浪市としては、学区制審議会を立ち上げ、今後の小中学校の体制について、協議をしていただきました。結果、基本的には、小学校は各地域に引き続き残そうということで、答申を頂きまして、それに向けて動いておりますので、釜戸小学校と陶小学校が複式学級として、４月から新しい体制になっていくということです。これに関しては、伊藤教育長、また県へのお願いの中で小川県議にも協力していただいて、瑞浪市の複式学級が保護者の皆さんにご心配をかけない中でスムーズに移行できるよう、特段の配慮をいただきたいというお願いをさせていただきました。県の森教育長から、県教育委員会としても全面的に応援、支援するというようなお話をいただきましたので、この４月から新しい複式学級がスタートできるのかと思っています。今後、また解消するときもあったり、新たに、他の学校で複式学級が始まったりということの繰り返しが当分続いているかと思いますが、何とか地区小学校を残す方針で今進んでおりますので、地域の皆さんから新たなご要望がない限り、この体制を維持していきたいと思っています。ぜひ教育委員の皆さんもご理解いただき、多分、スタートした以降、釜戸、陶の皆さんから様々なご意見やご心配の声や上がってくると思いますので、そういう声を、小さな声でも結構ですので届けていただいて、早め早めに対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

ただ、全てがデメリットではないと私は思っています。複式のメリットももちろんありますので、メリットの部分を最大限伸ばしながら、不安に思われている部分のフォローを行っていかなければならないと思っていますので、お願いします。

また、岐阜県におかれましても、公立高校の統合再編をまた改めて検討する、この令和７年度が初年度とし、おおむね令和14年を一つの目標として、県下にあります公立高校の統廃合について協議、検討の計画があります。何と言いましても、瑞浪高校は市内唯一の公立高校ですから、瑞浪高校がなくならないように、みんなで考え、支援する組織を立ち上げていきたいという思いで準備に入っております。しっかり瑞浪高校の魅力をバージョンアップして、瑞浪市に瑞浪高校がなくては、瑞浪市の教育が成り立たないぐらいの環境をつくって、県にしっかり示していって、県が、やっぱり瑞浪高校は残さなければいけないという判断がいただけるように協

議会等を立ち上げて検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。
　さて、総合教育会議は、首長と教育委員会が、相互に連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくため、平成２７年度より全ての地方公共団体に設けるものとなっております。瑞浪市においては、日頃より十分意思疎通は図られているとは思いますが、改めて、教育委員会委員のみなさんと有意義な意見交換ができるよい機会と捉え、瑞浪市の教育の方向性を探ってまいりたいと思います。皆さんの忌憚のない意見をお聞かせください。
　以上で、挨拶といたします。

２　教育長あいさつ
　貴重な機会を設定できたことをありがたく思っています。
　今市長さんがお話された複式学級については、各学校と連絡を取り合いながら、教室の環境を整備し始めているところで、４月からのスタートがスムーズにいけるように準備をしています。
　本日は、このような会の中で、市長さんと直接意見交換できるありがたい機会と思っています。有意義な会にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

３　協議・報告事項
〇事務局長
　これより本日の協議・報告事項に移ります。

〇市長
これより議長を務める。

①瑞浪市のコミュニティ・スクール、地域学校協働活動について…資料№.１
〇事務局（学校教育課、生涯学習課）
　協議・報告事項①について、資料により説明

〇可児委員
　コミュニティ・スクールの活動として、グラウンド等の草刈り活動の他に、家庭科の授業でミシンや料理に地域の方に協力していただいたり、体育の剣道で経験者の先生を募集したりという動きがあり、地域が教育に入っていくような具体的な活動が進んでいて、とてもすばらしいと思っています。
　また、今後ですね、他の科目で、地域の方たちと協力して授業を進めていく予定や、今後はこういった活動も検討しているといった科目や授業の検討されてるようなものがあれば教えていただければと思って質問いたしました。

〇事務局

今後どのように展開していくかという中身については学校ごとで様々ですが、教育委員会として掴んでいる内容としては、家庭科、図画工作、技術、総合的な学習の時間の内容での講師、理科の授業の中で自然環境について話題になる場合の講師等を展開していきたい。特に総合的な学習の時間については、ふるさと瑞浪を、自分の住んでいるその地区のよさを再認識するすばらしい機会ですので、地域の方の力をぜひお借りしたいという願いが強くあると認識しています。

〇羽柴委員

例えば授業の中で、これが地域の力がとても有効に働いて、先生だけでは準備も時間がかかったし、効果も少なかっただろうという事例があると思います。そういう事例を整理して、瑞浪だけではなく他の地域でもやっているので、これは子どもにとっては非常に教育的でいいという事例を整理しておいて、そのときの指導のポイントや注意事項を書いた一覧がどの地区にもあって、それをうまく活用していかないと、あれがどうかこれがどうかということを考えている時間ももったいないし、なかなかアイディアも出てこないので、うまくそういうものを活用するといいと思いました。

地域の役員をやっていると思いますが、例えば、地域学校協働活動の中身が青少年育成町民会議でやっている中身とほとんど同じで、メンバーも一緒のところがあって、「今日は、俺はどっちで出とるんや」というのが実際の地域の人の声で、地域で人が少なくなっていたときに、これを整理して何か瑞浪独自のものにまとめて、もっと効果的に「こういう形で瑞浪市はやっていますよ」っていうような、小さな都市らしい工夫改善があってもいいと思います。

〇市長

まちづくりには連絡協議会というものがあり、それぞれの町のリーダーが集まって、年２回ほど情報交換する場を設けさせていただいています。令和７年度の後半ぐらいでも結構ですけど、それぞれ取組を情報交換して、いいところは取り入れる、参考にするとか、組織ごとに交流もして、少しでもよくしていきたいと思います。

いろんな組織があり、それぞれの組織が同じようなことをやっていることについては、整理したいと思います。

〇鈴木委員

今、各地域で子どもたちが、ボランティアとしていろんな行事に参加しているという取組は、どこでもいろいろ聞いていて、とてもいいことだと思います。特に今、盛んなのが大湫地区、毎月のようにいろいろとイベントが行われているということをお聞きしました。その際にも、地域の中学生や高校生が、ボランティアとして活躍してくれると聞きました。人口が少ないところで、そのように盛んに行事があると、毎回ボランティアとして行っている子が、同じような子に偏るのではないのかなっていう思いもあります。これは、子どもがボランティアということだけではないですが、全ていろんな行事があったときにアンケートをとったり、参加者の意見を何か簡単に聞き取れることができたらと思います。子ども側からして、ボランティアで自分が参加

することは皆さんすごく嬉しそうだと思っていると思いますが、本当に子どもが自主的にやりたい、よかったと思えているかという本当の気持ちがどこかで聞けたりしたらいいなと思いました。

説明資料でボランティアを募集したところ、延べ 50 名以上の参加がありましたということになっていますが、どうやって周知されたのかがとても私は気になっています。どんな分野でも、周知するのが難しいところが課題になっていると思いますので、そこが知りたいです。回覧版だけではなかなか難しいと思います。

〇事務局

例えば、瑞浪北中学校区は、５つの地区から子どもたちが集まっていますが、住んでいる地区だけでなく、地域を超えての参加をしています。特にそういう子どもたちは、熱い思いを持ってボランティアの良さを感じながら参加していて、「参加してよかった」や「続けていきたい」など次に繋がるような感想をいただいているという状況を聞いています。

周知の方法は、詳しく把握しているわけではありませんが、コミュニティ・スクールから繋がる地域の方々からの口コミで広がって、「良かった」という声の広がりから集まったもので、特別な方法が講じられたということではありません。

〇鈴木委員

個人的に一番良いのは、口コミだと思います。

〇市長

元々、まちづくりが盛んな地域で、声がかけやすい、いきわたりやすい地域もあり、逆に児童生徒や住民の数が多く、なかなか伝わりくい地域もあると思います。子どもたちのために、特技を持った方、子どもたちに指導していただける方がありましたら、委員からも積極的に声をかけていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

〇柴田委員

瑞浪地区は、まだコミュニティ・スクールへの関心が薄いかと思いますが、瑞浪小学校の子どもたちも地域の宝ですので、周知をしていただけるといいと思います。

〇市長

瑞浪地区は広いこともあり、まちづくり推進協議会のみなさんは、山田地区をベースとして色々な活動をしてみえますが、今度は瑞浪駅周辺地域を中心に寺子屋等も始められて、色々な工夫がされています。それぞれの地区で主催して、そこへ皆さんが集まってくるという機会も必要かもしれません。バランスよくリーダーの方々が会場を設定すると参加しやすいということもありますので、そういうところも参考にしてください。

〇柴田委員

バランスよくという点で、各地区に市会議員がみえますが、その方たちが働きかけてくれるということはありませんか。

○市長
当然、市会議員は地域の代表でもあります。役割が違うとこもありますので、コミュニティ・スクールの委員の中に、議員という立場で参加することはどうかと思いますけれど、議員さんの中には一地域住民として参加してみえる方もあり、ぜひ皆さんほうから、議員に早め早めに、声かけしていただいて、参加を促していくということも大切だと思います。

②瑞浪市GIGA第１期（Ｒ２．２月～Ｒ７．３月）総括…資料№.２
○事務局（学校教育課）
協議・報告事項②について、資料により説明

○羽柴委員
まずは慣れるというところから始まり、先生方も子どもたちも、本当にこの短時間でよくこれだけ授業で使えるようになったということは、見事ですばらしいです。今日の発表の中でやっていることは全ていいことだと思います。
欠けていると思う点についてお話しします。事例として、一つ目は、ドリルソフトで習熟度に合わせた問題を提供ということで、児童一人一人に合わせた学習を提供するために、習熟の程度や誤答傾向に応じた学習端末向けのドリルソフトを活用し、児童は自分のペースで効率的に学習が進められる。また、ドリルには、学習履歴も残るため、個人の進捗や誤答傾向に加え、クラス全体の傾向も把握できるので、教師はこうした傾向を踏まえながら、授業に活用することができる。二つ目の事例が、相談チャットアプリで子どもに関する問題を早期発見ということで、いじめ問題をはじめとした子どもに関わる問題の早期発見早期対処を実現するためにＩＣＴを活用しました。これによって心身の状況に関するアンケートを定期的に実施することで健康観察を行い、不調を早期に発見できる。また小さなことでも相談しやすい環境を整備できるということで、こういう使い方もあるということです。
苦手なところをトレーニングするのは、大人でも嫌です。トレーニングという苦手なところを上手に褒めて育ててくれるＡＩが絶対できてきています。それを入れて、この評価のところに、「苦手なところが、ＩＣＴのトレーニングで身についた」という項目があってしかるべき。基礎学力が身につかないと、すぐに調べるというところばかりで本当にいいだろうか。基礎学力があった上で調べて、力がついているのだが、その部分が、この表を見ても文科省もおろそかになっていると思います。

○事務局
ドリルソフトにつきましては、3 年目になりますが、e ライブラリーというドリルコンテンツを全小中学生が使用しています。お子さんの画面の中でドリル等を解いていくと、種から芽が出て、綿毛ができてというのをご覧になった方もあるかと思いま

す。なかなか学校現場の先生方で、紙ベースのもので今までやってきたっていう実績や、効果的な活用についてはイメージがつくが、ドリルコンテンツとなるとどううまく使っていいかというところに戸惑いがあるということで、「本当にいいものですが上手に使えなくって」という声は聞くようになってきました。それと別に、夏休みとか冬休みに持ち帰らせて、「おうちでドリルをどんどんやっていいよ」というような宿題を出している学校もあるので、そういうところは子どもがどんどん使っているという姿もあるという状況です。今年度、今学校のほうに四つほどＡＩドリルの紹介をしまして、各学校のほうで、実際見ていただいて、使い勝手のよいものを選択して頂いている段階になっています。まだ、ここに書けるほどＡＩドリルを活用し切れてないというところが瑞浪市の現状です。

相談チャットアプリについては、チャットはまだ使ってはいませんが、「心のアンケート」で、今の心の中の不安感を捉えたり、「学校適応感」といって、子ども自身が学校に馴染んでいると感じているかをいろんな視点から判断するアンケートがあったり、それらのものをタブレット端末で答えるようにしています。字を書くことが苦手な子でも選択肢のものを選ぶだけで済んだり、周りの目を気にせずに打ち込めたり、他にも先生たちの集計がすぐ出てくるので、気になる子にすぐ声をかけられるというようなことに活用しています。

〇市長

使いこなせる子どもたちのバラつきはありますか。

〇事務局

無いとは言い切れません。タイピングの速さが影響したりしますので、秋頃からタイピングソフトも入れながら、そういうところでの差を減らしていきたいと思います。あとは、日頃から家庭で、タブレットやスマホ等を触り慣れている子と、余りそういうものは触らせない方針の家庭もありますが、学習で使う技能に関しては、中学生ぐらいになると、授業を見させていただいてもさほど感じません。

〇市長

せっかく、すばらしいツールなので、やっぱり子どもたちが少なくとも全員が同じレベルで使いこなせないと、今言ったような、いいところを実現してかない。

〇可児委員

必要な情報を選択し、情報を活用するのは人間側ですね。どういうふうに活用していったらよいでしょう。また、クラウドツールを利用して仲間と意見交換したり、現実でも意見交換の場で、不適切な言葉遣いとか、あるいは、どこの誰か分からない人との連絡を通じて、仲間を傷つけ合ったりとか、自分が傷ついてしまうリスクもあります。

そういうことに対して、向き合っていく方法はどういったものがあるでしょうか、という危険性はあると思われます。

これまでの瑞浪市さんの取組ですと、「これやっちゃ駄目だよ」、「あれやっちゃ駄目だよ」という話は聞きますし、私自身もそういう話はしたことがあります。ただし、この分野の発展というのは本当に日進月歩でして、ある時点で「こういうふうにやりましょうね」って言って、それが次の年通じるかというと、多分全く通じないですね。上手に使いこなしていくと同時に、使い方、危険性も同時に増えていっています。岐阜市で、「デジタルシティズンシップ教育」というのがあり、「ルールがまだ明確じゃないリスクもあるが、こういうふうに線引きしようってできないときに、自分たちがその情報を扱う側として、どういうふうに主体的に関わっていけばいいのか」というのをはっきりした線を引かずに自分たちで考えていこうという、ＩＣＴの付き合い方をされる教育もあります。

便利になって子どもたちが使いこなせていく反面、リスクも増えていきますので、使いこなせる利権者としての教育もあわせて進めていっていただければと思います。

〇事務局

教育の現場でも、デジタルシティズンシップ教育というのは本当に最近よく耳にするようになってきましたし、資料のほうにも情報モラル、情報リテラシーという言葉で書かせていただきましたが、どんなに便利になっても、やはりどこかで人間が判断をしなければいけない、人間が使う側でなければいけないということを、きっちりと子どもたちに指導していかなければならないことを、私たちはいつも肝に銘じておかなければいけませんし、そのために、学んでいくことはとても大事だというふうに考えております。

岐阜市さんの情報どうもありがとうございました。

③瑞浪市の不登校の現状について…資料№.３

〇事務局（学校教育課）

報告事項③について、資料により説明

〇羽柴委員

この表に見えない、放課後登校や１時間だけ午前中に来て帰るなどの数も上げておとくと状況が分かって、学校現場の大変さがよく分かると思います。

６月、11 月頃に休みが増えるとなると、学期が始まって２か月ぐらいすると、あとまだ残り１か月以上あると思うと、この集団の中で行きづらいという感じで、入っていく子が多いパターンかなと思いました。前は、運動会などの何か大きな行事のときに、何か自分が足引っ張っているかなと行きづらくなってというパターンをちょっと考えていました。

こぶし教室に通っている子が割と多くいて、よくやってくださっていると思っています。行った時には、子どもたちがいい顔して先生と関わりながらやっているのでいい活動だなと思っていますが、陶や釜戸の遠い子どもたちは、ここに通えているのだろうかなと思います。不登校とわかる券があって、無料で陶からは東鉄バス、釜戸からはＪＲで瑞浪駅まで来られると、親が送り迎えしなくても、救いたい子が何か人と

の関わりの中で転機を迎える子がいるかもしれないと思うので、そういう子の芽を摘みたくないと思ったときに、東鉄さんもＪＲさんも、そんな話を持っていけば、無料で協力してくれないかと思いました。

〇教育長
　自分が不登校者という何かを持っているということが辛いと思いますので、その辺りが上手くやれるとありがたいとことだと思います。

〇羽柴委員
そういう子たちが一歩でも家から外へ出るということが何かいいことには繋がるのだろうけど、確かに、券は持ちにくいですね。

〇柴田委員
　不登校の子が多く、中学 3 年生までは学校や支援センター等で見届けていますが、中学校を卒業してからはどうみていただけますか。

〇事務局
　中学校を卒業してからも、しっかり子どもが自立して、しっかりと学校に行けるよう、できるだけ中学校の間に支援を進めています。例えば今年度は、今、通信制の高等学校に通っているお子さんがいますので、夏期研修会の中で、そういった子どもたちと現在不登校になっている子の交流や、親さんと共に話を伺う機会をつくったりとかしながら、できるだけ将来夢や希望をしっかり持って、中学校を卒業できるように進めています。この制度が完璧ではないので、高等学校、上級学校に引継ぎを丁寧に進めることが大事だと思っています。

〇市長
　高校側に対応するそういうシステムはありませんか。

〇事務局
　高等学校によって様々だと思います。

〇可児委員
コミュニティ・スクールでも民生・児童委員でもいいのですが、人材をどこかで集約して、家庭から困り感があったときに行って、いてあげるシステムを瑞浪市でつくっていただくことはできないでしょうか。不登校の要因背景、事情が様々で、おそらく学校の先生や教育委員会で、この子に焦点を当ててやっていくことに限界があると思われます。
　他市の事例で、昔おじいちゃんおばあちゃんや近所のおばさんがやってくれていたこと、子どもがいるときに家にやってきて、別に何するわけではないが、そこにいてくれることで、そこにいるお父さんお母さんが、ちょっと買物に行ってくるとか、や

れることがあるとかいって、家庭に少し余裕が生まれて、安定がもたらされる場合があり、結果的に学校に来やすくなるというか、不登校が解消されやすくなるようなこともあったように聞いています。ただ、それを教育委員会や学校の先生にそこまで望むには無理です。人がいりますし、同じ地域内でやられると「この子は不登校だから」等の話になり、そういう認定をどうするかという話になるので難しいと思いますので、各コミュニティ・スクールで人材を出しあうとか、民生児童擁護員さんたちで協力し合って、人材バンクみたいなものをつくり、そこに別に不登校に限らず、ちょっと家に居てほしいという要望があったら派遣する。それでもやっぱり、そのドアが開くまで時間がかかることもあると思うので、これまでの働きかけも十分いると思いますが、ドアがあいたときに、そこに人を派遣してあげる仕組みを、瑞浪市でつくっていただけないでしょうか。多分、この不登校の解決に一石を投じてくれるのではないかと考えています。

〇市長

不登校と限定していませんが、親が子育てのためにいろんな負担があり、自分の用事をこなせなく、親自身がイライラしたり、子どもに対して優しく接しられなくなったりというような家庭は、核家族が増えてきていますので多いです。

それに対しては、ファミリーサポートセンターという組織をつくっていまして、そこに連絡をしていただくと、登録してあるサポートしてくれる方々が、家庭に行って、一定の時間で契約、要望時間内で、子どもの面倒を見てくれるので、その間に、お母さんは、買い物に行ったり、病院へ通ったりする制度があります。ただ、不登校だから、面倒を見に来てという活用はありませんが、ぜひ、家庭でちょっと自分の都合が悪いから、うち子は学校へ行っていないからとういうニーズにも答えられると思います。

〇鈴木委員

ファミリーサポートセンターの周知が本当に行き届いていませんし、どうしても利用料が発生します。

お金を払って預けていいのだろうかと思う、本当に真面目なお母さんが多くいます。別に、ちょっと息抜きで預けることも私は全然いいと思いますが、本当にやむを得ない状況のときにファミサポを利用しようとか、お金もかかるし、こんなちょっと自分が疲れているからという理由で利用しちゃいけないのではないかと思っているお母さんが多いです。預かり年齢が、おおむね 10 歳までとなっていますが、そこを私はもっと引き上げて、年齢がもっと大きい子でも大丈夫にしてほしいなと思います。

あと支援者が不足しており、急な要望に都合のつく支援者がおらず、お断りしている場合もあります。支援者が多ければ対応できる可能性も多くなります。子どもの家で見るだけでなく、支援者の家や子育て支援センターで預かって、遊ばせておくってこともできるので、いろんな人にもっと周知していただきたいです。

〇市長

せっかくいい制度がありますので、もう少し使い勝手をよくして、ハードルを下げて、もっと皆さんが利用しやすくしたいと思います。
不登校の理由にいじめはありませんか。

○事務局
仲間同士のトラブルが原因になっている場合があります。

○市長
子どもが行きたくないなら、無理して行かなくてもいいと考えている保護者もいると聞いています。

○教育長
新聞などで、「行きたくなければ、行かなくていい」と広報していることの影響が大きいと思います。

④瑞浪市のいじめの現状について…資料№.４
○事務局（学校教育課）
報告事項④について、資料により説明

○可児委員
調査結果について、いじめの認知件数が、昨年度同時期と比べて大幅に増加しているという点ですが、良いことだと思います。法律が規定するいじめの定義が、非常にハードルが低いからです。被害者側が嫌だと感じて訴えれば、法律上はいじめに該当します。加害者側で特に意識がなくても、被害者側が嫌だと思って、嫌ですと言えば、それで法律上はいじめに該当し、嫌だと思うことであれば、日常的に起きますし、逆にいじめが認知されませんでしたというのは、法律の定義上あり得ないことだからです。だから、たくさん認知されるのは、ちゃんと学校が、積極的に児童生徒の嫌だという思いを受け止められていると考えます。
むしろ見るべきは、発生しているもののうち解決がどれぐらい進んでいるかだと思います。半数以上解決しているということなので、恐らく現場の先生方が事案を見て、いじめに対してどのように対処するかを見極めて対処してくださっている結果だと思います。
増えているからいけないというふうに思いがちですが、法律上、必ずしもそうではないので、たくさん認知されることはむしろ良いことで、解決に向かっているということであれば、それは評価できる内容だと考えます。
現場の先生方や教育委員会の皆様のご尽力は、すばらしいものだと考えます。

○羽柴委員
イメージとしては、パソコン、携帯でネットを使った誹謗中傷の割合はもっと高いと思っています。子どもや中学校の情報から、もうちょっとありそうな感じがし

ています。瑞浪市は少ないとは思いますが、こちらがつかめないけれど、何かきっとありそうだから、そういうのを見つける方法をちょっと気にはしといてもらわないといけないと思います。
　発見のきっかけのアンケート等78％ということで、デジタルになったことを有効に活用しているところは非常にいいことだと思います。
　相談相手が、学級担任というところもいいと思います。
　いじめに関しては、学校全体でやっていかなければいけないことで、子どもというのは、担任が見ているところではやってはいけないと思うけれど、担任の目から離れたところでは、たがが緩んでやってしまうことがあるので、そういうところはやっぱり、担任以外の先生も、学校の子は全部自分の子どもという気持ちで見て、早めに情報を担任に入れるなり、教頭や生徒指導に連絡し、担任が抱えるのでなく、いじめこそ担任以外のところで出やすいので、そういう意識は持っていただけるとありがたいです。

〇鈴木委員
　本来こういうことの話を受け止めるのは親の仕事だと思っていますが、それがなかなか難しい家庭環境の子もいっぱいいて、その中で何に頼れるかというと、学校での先生の目しかないと思います。先生も本当にいろいろ大変なのはもちろん分かっていますが、そこで色々このようにアンケート等を使ってくださって、何とか、言えない、言ってはいけないと思っている子たちに一歩前進させる動きをさせてくださっていることに、頭が下がる思いです。
　今後もこのような活動をどんどん続けて行ってほしいと思います。

〇市長
　発見のきっかけの「心のアンケート」は、どのくらいの頻度で行っていますか。

〇事務局
　学校によって、月、学期に１回や不定期でアンケートをとりながら状況を掴んでいます。

〇市長
　面と向かって言葉で言いづらいことを、タブレットで都度伝えるコーナーはありますか。

〇事務局
　自由記述に悩みを記述することができます。

〇市長
　加害者の親には、どのように対応していますか。

○事務局
　いじめが訴えられた、つらい思いをしたっていうのを受け止めたら、やはり加害者側の親にも、事実を確認した上で相談をさせていただいて、解決のための手だてを一緒に考えていくというスタンスをとっています。

○市長
　この解決するためには、相当加害者に対して指導して、注意してもらっていることもあると思います。
　どうしても早期発見ですので、小さいトラブルのうちに気づいて、対応してあげるということになると思います。

４　意見交換

○可児委員
　屋内運動場、いわゆる学校の体育館の空調機器の整備についてです。
　会議の冒頭で市長より、現状、市内の小中学校は、住民のほうから意見がない限り、維持なさるというお話を伺いました。
　教育委員として教育長訪問に、夏場同行させていただいて、体育の授業を見ると、苛酷な状況で授業が行われております。先生たちの創意工夫もありますが、相手は、天候ですので、どうにかできるものではありません。また、我々が小中学生だった時代と違って、今は夏休みプールもありません。中学校のプールはありません。夏休みのプールがない理由としては、気温が高くなり過ぎて、登校登下校中に熱中症で倒れてしまうかもしれないからです。そういう時代に突入しております。学校はこのまま維持されています。他方、気温というものについては、もう学校の先生方の工夫で何とかできる次元を超えているような状態です。
　このような状況の中で、今年度、ＰＴＡ連合会のほうから県のほうに、体育館のエアコンの設置などを含めた要望が出されて、それに対して岐阜県からも、県内各自治体に対して、設置を前向きに促すような、前向きな回答を頂いている状況です。また、エアコンの設置には、ただ単にエアコンつければいいというだけではなく、体育館の機密性の向上等もあり、費用的に莫大な面があろうかと思います。
　ただ、国の補助制度を使って、空調を設置したという事例もありますし、リース契約をして、一定期間リース料を払い終えた後、無償で引き取ることができるような形で契約の工夫した自治体もニュースなどで上がっております。
　子どもたちの運動不足。また、地域のクラブの指導者さんたちから上がってきている現状です。何とかしてあげられるのは学校現場では限界に来ていると思います。ぜひ、屋内運動場に空調設備の設置に向けた前向きな取組をお願いしたいと思います。

○市長

今、温暖化で熱中症等が問題になりまして、これは文科省もそれに対応ということで、まずは普通教室にエアコンがつきました。そして今度は特別教室等にもエアコンをつけるということでこれも全部終わりました。

残るのが体育館ということで、今後設置を進めようというのが流れです。ただ、今すぐというのは、予算の問題でございます。必要性はもう十分分かっておりますので、補助金があるということは分かっていますが、より有利な制度をうまく活用しながら、順番にやっていきたいと思っておりますので、少しお時間を頂き、遅かれ早かれ設置していかないとと思っていますので、よろしくお願いします。

〇事務局

補助金に関しては、6年度の国の補正予算で有利な制度ができましたので、その研究はこれからしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

〇市長

どっちにしてもやらないといけないことは重々認識をしております。問題は、予算をどう確保していくかというところで、補助金を最高に活用しながらやっていきたいと思っています。

〇鈴木委員

日本全国各地域で今、部活動の地域移行が始まっているところも多々あると思います。

瑞浪市においては、今どのスポーツの分野においても、スポーツ人口がすごく減ってきています。そして、地域のクラブがあるから、上を目指せるというような働きも担っていると思いますが、人数が少ないから、市の予選大会がないというのをソフトテニスで聞いて、びっくりしました。いろんなスポーツでそのような感じに変わってきていると聞きました。このことを考えていくと、もう今は、学校ごとで競い合っているところではないと思います。これはどんな種目でも、学校という垣根を越えて瑞浪市全体で、一つのスポーツをみんなで練習をするようにしていけば、地域のクラブの方も当番で入れたり、今までは皆さんボランティアで休みのときに、練習場所にこられたと思います。今回、報酬が出るとかいろいろ話がありますが、指導者の負担がすごく大きいので、そこで、幾つかのクラブが、これは市としてまとまって練習したら、クラブの方も順番で入れたり、大勢の目があれば、1人の負担も減るっていうことで、種目ごとに合体してしまうっていうことができたら、みんなで学校は違うけれども、上を目指し、志を一つにしていくといいと思います。デメリットももちろんあるのかもしれないですが、メリットのほうが多いと思います。

練習場所が遠くなる等いろんな問題があるかもしれないですけれども、まずやってみないと分からないという思いもあるので、市がバックアップをしてくれて、一つにまとまってできたらと思います。

○市長
　部活動地域移行の計画について、事務局の説明をお願いします。

○事務局
　文部科学省スポーツ庁のほうも、やはり今地域移行という言葉でなくて地域展開というように、いかに地域で支えていくかという点に問題意識を高めています。生涯学習課とスポーツ文化課と３課で集まり、協議会を開くための準備委員会を今開いているところです。どんな問題点を抱えているのか、どんな困り感を持っていらっしゃるのかを整理していく必要があるだろうというふうに考えているところです。実際瑞浪市においては月曜日から金曜日までが部活動で、土曜日、日曜日は、保護者クラブという形で、先んじて、瑞浪市は部活動の地域移行に近い形で、既に実施がされているところです。その中には既に困り感を持っていらっしゃるクラブもあれば、余り困り感について表面化してないようなクラブもあるだろうということで、今は、３月に協議会を開く前に、各クラブ代表者の方に直接アンケートをとらせていただいて、その声をしっかり聞いていく中で、市として、どのような支援が必要となるのかということについて検討して、協議会の場で再検討させていただくというような計画で進めていて、令和８年度に、少しでも多くの支援ができる中でスタートできればと思っています。

○市長
　あくまでも今、取り組もうとしているのは、土日の地域移行です。平日は、それぞれの学校で部活としてやっていますので、今検討しているのは土日のことなのです。ただ瑞浪の場合は、もう土日は、先生が参加しなくて、全て地域でやっていましたので、その伝統が瑞浪市はすごく進んでいまして、逆に言うと地域移行できているという、現状ですが、さらに、今、協議会を立ち上げて、より土日の地域移行が、スムーズに進めるように、そのための課題は何なのかお聞かせていただいて、その課題に対して瑞浪市が、今まで支援はしいていませんでしたが、支援をしなくてはならない部分があるのかないのかというところで、それを今やろうとしていますので、お願いしたいということと、今のクラブの状態はそういう状態です。
　これまでは、地域の方が自主的にやっていただいていたものを、文科省からはきちっとシステムとして制度としてやりなさいということですので、それに向かって協議をしていって、令和８年４月からスタートしますので、よろしくお願いします。

１７時００分　終了